公民館だより 小和田

第８１号
発行日
２０１３年３月１日
発　行
茅ヶ崎市立小和田公民館
茅ヶ崎市美住町６番２０号
(TEL 0467-85-8755)
(FAX 0467-85-8788)
mail:kou_kowada@city.
chigasaki.kanagawa.jp

◎内　容

★ 茅ヶ崎を知ろう「娘と語る　城山三郎」
★ 親子エコ工作「おひさまランタン作り」
★ 平和事業「ちいちゃんのかげおくり」・親子で学ぶ防災講座
★ 子ども秋まつり
★ ふるさと再発見「お月見と旧和田家周辺散策」・茅ヶ崎の社会教育を考える会
★ 公運審から発信
★ 公民館のぞきみ隊　料理大学・シェフ小和田
★ やさしさを育む「あいさつ」の街
★ いじめるな！
★ 輝く！　野球少年たち
★ 緑のカーテン

茅ヶ崎を知ろう

「娘と語る　城山三郎」

日　時　平成２４年７月２２日（土）
　　１３：００～１５：００
講　師　井上紀子氏
　　作家・城山三郎の二女
共　催　城山三郎湘南の会

今回は、「城山三郎湘南の会（注）」との共催で、参加者７２名という盛況だった。

井上氏は実にきびきびとした話し方をされる。はじめに「『城山』は住んでいた名古屋の地名、『三郎』は引っ越したのが三月だからという、ただそれだけのことでして」には、笑い声が起こった。本名「杉浦英一」よりも緊張感があり、ぴったりな気がする。

スライドを指しながらのお話が始まった。まずは少年期。読書に没頭し、商家の長男だが、家業には不向き、軍国少年に成長する。海軍特別幹部練習生として志願入隊し、水中特攻の訓練にも励む。やがて終戦。城山にとって、軍部の実態を知った衝撃は大きかった。生きている幸せを思うとき、それは当然、社会の模索につながってゆく。城山文学の原点はここにある。

一橋大学卒業後、故郷の愛知学芸大学勤務となる。休館とは知らず図書館へ来て、偶然出会った女性（容子さん）とのちに結婚、まもなく茅ヶ崎へ転居した。それからの数年間は、毎日、岡崎までの通勤である。「え―っ」。全員の吐息に、「ゆっくり本が読めると、喜んでいたそうです」。さらりとかわされ、今度は感嘆の雰囲気であった。

自宅でのスナップ写真。身体を横にしなくては通れないほど書棚の並ぶ室内や、今にも崩れそうな資料の山に埋まっている横顔など。

家族に囲まれた顔は、一人のときとまったく別だ。こちらまで口元がゆるみそう。「年老いた両親が、公園のベンチで、子どものようにお尻をぶつけ合ったりして」など、微笑ましいエピソードも披露。最愛の容子さんを亡くし、『そうか　君はもういないのか』を書かれた心情を思う。

約一時間半熱心なお話が続き、二、三の質問などあり、ぐんぐん引き込まれたひとときだった。

（注）「城山三郎湘南の会」
城山三郎は、平成１９年に亡くなるまでの５０年余を茅ヶ崎で過ごした。城山作品のファンたちは、「湘南茅ヶ崎に語り合う場と貴重な資料の保存を」と声を上げ、平成２２（２０１０）年６月に設立した。

代表作として『落日燃ゆ』『男子の本懐』『辛酸』『指揮官たちの特攻』『雄気堂々』などがある。

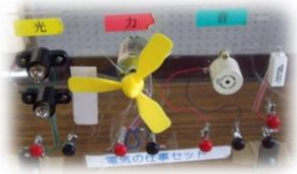
（青木　君子）

親子エコ工作

平成２４年８月４日（土）
１３：３０～１６：００

講師紹介　NPO 法人アースエコ
岩澤氏・長澤氏・桑原氏・
壁谷氏・井手氏・西氏・川島氏

第１部　１３：３０～１４：５０
パワーポイント・DVD 上映と実験
第２部　１５：００～１６：００
おひさまランタン作り



DVD をじっくり見た後、人力発電で電気の仕事体験。４０W 人力発電は何人で点くの？　照明消費電力比較、待機電力測定の実験を４グループごと、５分間交代の実験をしました。

子どもの声。「ひゃ～地球が赤くなるんだ～」「電気やゴミを少なくし、水を大切にする～！」「電気は消すだけでなくコンセントを抜くぅ」「お風呂のフタをしまぁす」。地球の温度が上昇し、異常気象につながっていることを学びました。電気の働きは明かり、動力、音といろいろありました。家庭で使う電気動力は、エアコン２５％、明かり１６％、冷蔵庫１６％、テレビ１０％、その他３３％です。無言の静かな姿勢。

休憩後、お日さまランタン作り。説明指導を聞きながら作り始めている５・６年生。LED の光にハッピーバースディの曲が鳴り出し「やったー」と、感激の明るい歓声。LED 光の強い子、少ない子は懐中電気で充電。理解力の差はたのもしく成長の証。手伝ってもらった子ども３人、難しかった子ども３人。予定時間内でほぼ完成。ご苦労さまでした。

振り返りタイムに、「赤い地球にならないようにするにはどうしよう？」の投げかけ。「目標を書いてランタンにつけてください……」でした。隣席の３人組、お兄ちゃんの目標「僕はこれからエアコンをやめて、扇風機とうちわで過ごそうと思います」。見ていたお父さん、“うふふ„と笑顔で「ガンバっしょ」。

最後にお日さまランタンにつけた目標に向かって、８月２４日（金）～９月７日（金）までの省エネカレンダーが配布されました。完成して公民館に持参すると、お楽しみプレゼントのお約束つきです。親と子、別々のアンケートもありました。

後日、４人の子どもが「エコカレンダーが完成した～」と来館、プレゼントを受け取りました。

アースエコの皆さん、お疲れさま。楽しい時間をありがとうございました。

（村瀬　美子）

平和事業　～朗読と展示～

「ちぃちゃんの　かげおくり」

日　時　平成２４年８月２５日（土）
　　１３：００～１３：３０
出　演　朗読の会　心音（ここね）
パネル展示　１３：００～１７：００
協　力　平和を考える茅ヶ崎市民の会実行委員会

「朗読を通して平和を考える」という主旨で行われました。
講義室には　・広島の原爆被爆のようす
　　・もし茅ヶ崎に原爆が落とされたら
などが展示されていました。

心に残ったことば（講義室の掲示より）

・核兵器つくるのも人間　その核兵器使うのも人間
　それをやめさせるのも人間
・被爆者の訴えをわたくしは未来にはこびます

1　ノーモアヒロシマ　1　ノーモアナガサキ
1　ノーモアウオー　1　ノーモアヒバクシャ

朗読は、日本が戦争をしていた時の、ちぃちゃんの家族のお話です。「戦争でちぃちゃんのお父さんは軍隊につれていかれてしまいます。お父さんがちぃちゃんに『かげおくり』という遊びを教えてくれました」。

※「かげおくり」とは“自分の影を十（とお）数える間、空を見上げると、自分の影が目に焼き付いて空にその影が映る」という遊び”です。

小さな子どもたちが戦争の中で生き残れるはずがありませんね。家族そろって幸せだったころを思い出してちぃちゃんは静かに死んでいきました。

このような「戦争と平和」を考える機会が小学３年生の授業にあることを私は初めて知りました。

戦争は、兵士として戦争に行く人だけではなく、ちぃちゃんのような小さな子どもたちまでも、つらく悲しい思いをさせるのだと改めて痛感しました。

世界は平和でなければならない。皆、平等でなければならない。二度と戦争のない世の中であってほしいと朗読を通して改めて考えました。

リトルボーイの模型

（佐藤　博範）

親子で学ぶ防災講座

日　時　平成２４年９月１日（土）
　　９：４５～１２：００
協　力　**E-BO-SHI**　（エボシ）

防災の知識をゲームを交えて親子３２名が楽しく学んだ。なかでも、エボシオリジナルの“すごろクイズ„は大人気。防災に関するクイズに答えながらチーム対抗でゲームが進む。接戦の中、親のみが答える最終問題で勝敗の行方が決まるとあって、子どもたちの声援が部屋中に響き渡った。その他にも新聞紙で紙コップを作り、実際にお茶を入れて飲む、といった家ではなかなかできない貴重な体験もした。

防災用品の準備では、活発に品物の名前をあげていく子どもの姿や「なるほどねぇ～」とメモをとる親の姿など、それぞれが防災と向き合う有意義な時間を過ごした。

E-BO-SHI　（エボシ）　Enjoy　BOusai　SHIp
【防災の精神を楽しもう】
次世代を担う子どもたちに、防災の心を育てていこうとゲームやクイズを使って楽しく活動しています。

（染谷　直子）

子ども秋まつり

日　時　１０月６日（土）
　　１３：３０～１５：３０
委　員　加藤・吉田・伊藤・岡部・大和・根岸・
　　川田・伊藤・赤澤・鈴木・伊藤
会　議　第１回　６月　２日（土）
　　第２回　６月２３日（土）
　　第３回　７月　８日（日）
　　第４回　７月２７日（金）
　　第５回　９月　８日（土）
　　第６回　９月３０日（土）
　　いずれも１０：００～１２：００

今年度初めての試みとして、小学生を対象に、企画から開催まですべてを行った。

実行委員を募集し、応募してくれたのは小学生１１名。大人ボランティアとして２名が参加した。

第１回、第２回の実行委員会でなにをしようか、どのようにしようかなど話し合う。いろいろやりたい物が出た中で、①ボーリング　②たからさがし　③もぐらたたき　④さがしてラッキー　⑤人さがし、に決まった。内容とネーミングについての話になり、④のさがしてラッキーは館内にクイズ問題を張り、ヒントをもとに解いていく、というものだが、ネーミングをおもしろいものにしたいと、実行委員が考えた。⑤の人さがしもヒントを手がかりに、当てはまる人をさがすゲーム。

第３回では、担当者を決め、それぞれに必要だと思われる準備品を話し合い、まとめる。

第４回ではそれを元に買い物に出掛けた。最後の集合時間を決め、担当者ごとに必要な物を選び、買い物をした。買い物をしている間、子どもたちはいろいろな種類の中から、どれにしよう、これは？　など楽しそうに選んでいた。

第５回・第６回で、必要な小道具づくりを行った。担当ごとに分かれ、知恵を出し合い、高学年の子たちは低学年の子にも解りやすく丁寧に説明をしたり、手を貸したりと面倒をみていた。早く終わったところは「手伝うよ、なにすればいい？」など声をかけたり、共に動くことの楽しさも感じていたように思えた。

１０月６日（土）９時４５分に集まり、準備を始める。今まで作った小道具を講義室に設置し、最後の飾り付けをする。それぞれに工夫のあとが見られ、おまつりらしくなってきた。人さがしでは、職員も一役買い、変装をしながら仕事を行った。

午後１時３０分になり、いよいよおまつりが始まった。前評判もあってか、開始時間前には行列が出来た。受付で名前を書き“おまつりコイン”を受け取る。催し物によってコインの数が変わる。担当の実行委員が、声高らかに「〇〇はここですよ～」「〇〇やりませんか～」など呼び込みもしていた。会場は遊びに来てくれた子どもたちであふれていた。あっという間に２時間がすぎ、名残を惜しみながら片付けに入った。「たのしかったね～」「またやりたいね～」など話しながら担当のところだけでなく、大変そうなところにも行き、手伝った。

みんなで協力すること、お互いをいたわること、相談することの大切さなど、会議の中で自然に感じ取り、実行にうつせていたことは、子どもたちにとって大きな収穫になったことと思う。

（川田　昌子）

ふるさと再発見
「お月見と旧和田家周辺散策」

日　時　平成２４年９月２９日（土）
　　１３：００～１６：００
協　力　ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会
　　（略称：丸ごと博物館の会）

お天気に恵まれた土曜日。市立病院に集合、コミバスに乗っていよいよ出発。バスの中では遠足気分で、話に花が咲きます。

これから昔を知る旅～下寺尾地区の遺跡めぐり～そして、子どもたちにはお楽しみの「団子盗み」体験が待っています。丸ごと博物館の会の方のお話も楽しみでわくわくしてきます。茅ヶ崎市を博物館と見立てて文化、歴史、人物などの資源すべてについて調べて、まちの活性化を図る事業に携わるボランティアの方たちです。

バスは北陵高校入口に着き、七堂伽藍跡へ。ここには大きな寺院があったそうです。次に向かった北陵高校の敷地には１０００年以上前の役所があり、先程の寺院跡と合わせて一大繁華街であったとか。その後、私財をなげうって用水路を整備したり、飢饉時には年貢減額を直訴し処刑されたと伝えられている三橋勘重郎の墓や道祖神などを見ながら、民俗資料館へと向かいました。

民俗資料館（旧和田家住宅）では子どもたちが「団子盗み」体験をしました。お月見の日は子どもが団子を盗んでも見て見ぬふり……という古き良き時代の伝統行事です。

大昔に思いをはせながら普段は歩かない道を散策。足はちょっぴり疲れましたが充実した１日でした。

（安藤　敏恵）

公民館作り運動が一冊の本に

「社会教育施設の公民館が欲しい」「公民館があれば保育ができる」という３０代の母親たちが「子育て中だからこそ学びたい」と行動を起こした。1976 年 4 月に「茅ヶ崎に公民館をつくる会」を発足させ、会報「**息吹き**」を発行しつづける。初期のころはガリ版刷りだった。話し合い、学び、要望書を提出し、1980 年に地域の人たちが待ち望んだ社会教育施設の１号館として、茅ヶ崎市立小和田公民館が誕生した。保育費がついたのは二年後だった。36 年前の話である。それから４館の公民館が完成したのち、「茅ヶ崎の社会教育を考える会」に改名し、活動は今も続いている。そして**「息吹き」**３００号発行を記念して、私たちの歩みを振り返り一冊のまとめ誌を作った。３００号までに目を通すと、暮らしを見つめ、「書くこと」「記録すること」にこだわり続けた、多くの人たちの熱い思いを感じる。

『**息吹き**―公民館づくり書き続けて３００号』別冊『息吹き「私の８月１５日」』の２冊ができあがりました。本についてのお問い合わせは、西山（電話・0467-51-3908）までご連絡ください。現在、**「息吹き」**は３１０号が発行されています。

茅ヶ崎の社会教育を考える会　（藁科　裕子）

公運審から発信

公民館運営審議会（略称：公運審）は、公民館長の求めに応じ、事業の企画・実施などについて調査・検討を行い、住民の意見を公民館の運営に適切に反映させることが主な役割です。

１期２年の任期となっており、現在の委員は次の７名です。

会長	豊田　泰治 （茅ヶ崎私立幼稚園協会）
副会長	安藤　敏恵 （松浪小学校区青少年育成推進協議会）
委員	鴨志田　聡 （茅ヶ崎市小学校長会）
	安田　賢次 （松浪地区自治会連合会）
	矢吹　淑子 （松浪地区社会福祉協議会）
	菊池　紀子 （茅ヶ崎市食生活改善推進団体）
	神原　久芳 （小和田公民館利用者懇談会）

※任期：平成 24 年 4 月 1 日～26 年 3 月 31 日
※（　）内は選出母体

公運審委員としての抱負と公民館に望むこと

公運審には、幅広い立場から意見を寄せてもらえるよう、学校教育や社会教育の関係者、家庭教育の向上に関する活動をされている団体、学識経験者などから委員が選出されています。

今回、委員の皆さんに、公運審委員としての抱負と公民館に望むことをお伺いしました。

○公民館主催事業の積極的参加をお願いします。教育・健康・防災等地域の皆様にとって、とても役に立つ主催事業講演があります。また、公民館まつりや子どもの遊び空間など、仲間たちと一緒につくりあげる楽しみを体験してください。

（豊田　泰治）

○「地域で育てよう子どもたち」をスローガンに公民館の事業に関わっています。子どもたちにとって楽しいだけでなく、時には厳しく、でもどこか温かい……公民館がそのような場であることを願ってやみません。　（安藤　敏恵）

○平成２３年度の小和田公民館の利用率が 65.2%に達するという報告を読み、何よりも公民館スタッフ及び利用者の皆様の熱心な取り組みの結果であろうと思いました。小学生もボランティアスタッフとしてかかわる「子ども秋まつり」を一緒に楽しみました。　（鴨志田　聡）

○自治会は人の絆を第一に考えて活動しています。また公民館は各種の活動、催し物を通じて人の輪を広げる役割を果たしています。自治会としても公民館の活動をできる範囲で支援したいと思います。　（安田　賢次）

○松浪地区社協では、公民館共催で今！　必要な講座を開催しています。今年度は１０月２８日「新型うつ病の予防と対応について」を行いました。地域の方々の要望に応じて対応していきたいと願っています。ご協力をお願いします。

（矢吹　淑子）

○地域の相互活動の拠点として、活動の支援や情報の発信等、いつでも気軽に楽しく利用しやすい公民館であってほしいと思います。（菊池　紀子）

○利用者懇談会として、多くの老若男女の方が楽しく利用できるように、公平な部屋確保が出来ているように心がけます。公民館まつりには、たくさんの方が参加できるように、また、地域の子育て問題、高齢者の参加活動を支援できる企画をして、みなさんの喜ばれる公民館にしたいです。

（神原　久芳）

前列左より
矢吹委員
菊池委員
安藤委員
豊田委員

後列左より
鴨志田委員
安田委員
神原委員

（神田　一明）

公民館のぞきみ隊

男の料理教室　その①

≪料理大学

楽しく美味しく健康に！　の合い言葉のもと、平成８年７月２８日に設立した。設立の元になったのは、公民館主催事業の「男のつまみ教室」である。このとき受講したメンバーが料理に目覚め（？）さらなる発展を求め、会を作った。目的として、「男性の料理への関心を高め、料理の腕を磨き仲間を増やす。料理を通じて健康な生活を営む」とある。

会則には、世話役や買い物役、美化役等がある。役名の通り、世話役は会の取りまとめ、買い物役は料理に必要な材料の買い出し、美化役は料理で出たゴミ等の処理。ナント！　運営に関わるすべてを自分たちで行っている。料理は後始末が肝心。嫌がる仕事もテキパキとこなす。その姿が頼もしくもあり、かわいくも見える。

活動としては、毎月１回通常例会や自主実習（年2 回）がある。毎年、公民館まつりの模擬店に参加し、予定時間より早々に売り切れになってしまうほど好評。模擬店を楽しみにしている方が多く来館する。

のぞきみ隊！　参上！

９月９日（日）通常例会に公民館のぞきみ隊がおじゃました。

９時から打ち合わせと確認事項を行う。それぞれ意見を出し合いながら、話が進められていく。もちろん、最終判断は世話役。話し合いが進んでいる間、隣の実習室では、講師をお願いしている茅ヶ崎市食生活改善推進団体（食改）の方が忙しく準備を進めている。話し合いも終了間近、隣の実習室から準備が出来た、との合図。

おそろいのエプロンと帽子をかぶり、すぐに実習室へ移動開始。本日のレシピを見ながら、材料を確認する。

さて！　いよいよ腕のみせどころ！

食改さんのデモンストレーションがはじまり、皆、真剣に実習台をのぞき込む。材料の切り方からはじまり、ちょっとしたコツを教わり、レシピと見比べながらメモを取ったり“フムフム”とうなずいたり……。

デモンストレーションが終わり、各テーブルに分かれ、実習開始。テーブルごとに担当を決め、手際よく進めていく。その中をのぞきみ隊が突撃インタビュー。まずは４代目世話役の磨田さん。「この会はどうですか」の問いに「すばらしい！腕に自信のある人もそうでない人も段々グレードアップしている。楽しいのが一番！」と語る。次に今年の４月に入会したばかりのニューフェィス、内田さんにインタビュー。「この会に入ったキッカケは？」「他のところで一緒の人が料理大学に入っていた。その人に勧められて。今はとても楽しいですよ。妻からも好評です」とうれしそうに話す。

そうこうしている間に料理も完成間近。いいにおいが漂っている。盛り付けも終わり、隣の学習室に移動して、食事会となる。乾杯をし、食事をしながらの歓談。食後は感想を交え、食改さんへお礼の挨拶。できあがった料理は、写真に撮りその日のうちに田中さんが全会員にメール配信する。

皆様お疲れさまでした。忙しい中、嫌な顔もせず、インタビューに答えていただきありがとうございました。

現世話役の新倉さんから

２０名の大学生は月１度、第２日曜日に食改の先生方の指導のもと、レシピに従い料理づくりを楽しんでおります。

私は入会して約５年になりますが、例会のあと、有志でカラオケも楽しんでいて、交友関係も料理と歌のレパートリーも増えていることが嬉しいです。

これからも未知の残された人生を学生（会員）一同、楽しく愉快にやっていきたいです。公民館の職員の方々にはいつもお世話になり、会員一同感謝しております。

（川田　昌子）

男の料理教室　その②

≪シェフ小和田≫

楽しく料理して
美味しく食べて
楽しく語り合うを　モットーに

毎月第３日曜日　午前９時 ≪シェフ小和田≫の例会が始まる

のぞきみ隊は、午前９時におじゃまする。まず圧倒されたのが、【白のシェフスタイル】白のコック帽、コックコート、まえかけ、そして深紅のスカーフで身をかためた威風堂々の男性たちが登場。

みんな引き締まった表情がすてき！

代表の朝の挨拶に引き続き、連絡事項の確認、報告などで暫し張り詰めた雰囲気の中で、例会が進行していく。実習室では料理指導を担当する茅ヶ崎市食生活改善推進団体（食改）の皆さんが、食材の仕分けなどに大忙し。準備が出来ればシェフたちを呼び入れる。

男の料理教室　実習開始

いよいよ≪男の料理教室≫スタート。緊張した顔、顔、顔。が調理台を囲む。今日のレシピは、今、流行の塩麹を使ったメイン料理。副菜は二品、汁物は味噌汁。お決まりの一汁三菜。

食改さんのレシピ概要とデモンストレーションに食い入る目で、一心に頭に叩き込む人。熱心にメモを取る人。一瞬にしていつもの好々父さんがシェフの顔になっていく。食改さんの説明が終了。

各々グループに分かれ調理開始。実習室は間髪をいれず戦場に様変わり。調味料を取り合う人、野菜のカッティング、出し汁を取る人。肉の仕込み。暫し、実習室は熱気に包まれていく。おおよそ１時間、料理が仕上がっていく。そして、いよいよ盛り付け。

別室に場所を移し、「いただきま～す」の発声で試食開始。歓談を交えて箸がすすむ。この時間が実に至福の時。この語らいの時間が料理の貴重なスパイス。料理の腕が上がり、語らいもなめらか、ひいては家庭円満にもつながること受けあい。

シェフ小和田も発足から 今年で１８年

多くの OB と現役会員に支えられて今日に至った。入会時は、包丁の扱いもままならない、台所に入ったこともない人が、今ではいっぱしの料理人？　なせばなるものですね。今では楽しくて楽しくて、毎月の第３日曜日の例会が待ちきれないという人も多数。

会員の経歴も多士済々

現役の教育者。音楽家。春の叙勲で「瑞宝小綬章」拝受の栄に浴した人。大手ゼネコンの技術者。企業の中枢で活躍した人。AD。パソコンの指導者。更に画伯が４人等々。腕に覚えのある人たちのこと、テレビ、雑誌、新聞、その他外で食事をしたときに、これは美味しいという料理を目と舌で頭に入力し、家庭で再現している自称「味の伝道師」を称する人もいるようだ。

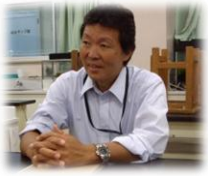
恒例の公民館まつりで大好評 ≪焼きとり≫でお馴染み

毎年２月に実施される恒例の公民館まつりは、シェフ小和田にとって、年間を通じて最大のイベントで、会員のまつりにかける意気込みは並大抵のものではない。焼きとり 2,000 本近くを大真面目に解凍、運搬、焼き方、販売、会計、会場整理と分担作業でチームワーク良く消化していく。ときには、２０人近くの行列になる。「今後も人気店の代名詞である行列の出来るお店として、まつりを盛り上げていきたい」と語っておられた。

（川田　昌子）

やさしさを育む「あいさつ」の街

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ
（俵　万智『サラダ記念日』より）



今年の「あいさつの街」看板づくりは、松浪中学校美術部の番。子どもを守る地域の会の小野江会長が額の汗を拭いながら、スクリーンプロセスで看板の主要部分を印刷していた。生徒たちは周りの部分を各自思い思いに飾り、仕上げまでの作業を分担する。インクの乾かし役、斑になった部分を修正する人、工作室で穴を空ける仕事など。作っていて楽しいことは？「テーマがなく自由に描けたこと」と、ニコニコ顔で部長さん。自由であることが人を生き生きとさせるのだなと感じた。

松浪中学校の生徒指導の先生は「挨拶はコミュニケーションの一つ」であり「かくれた学び」だと語った。このことは、以前、松浪中学校の教頭先生が述べた言葉「子どもたちの問題行動の原因の一つに、幼いころからの人間関係の希薄さがあげられる。人間関係を意識せずに高めていくことのできるのが挨拶ではないか」とのことば（「青推協だより」平成１０年３月発行“人間関係は挨拶から”）と符合する。挨拶が人間関係を高める「かくれた学び」だというのである。

ボランティア活動は「かくれた学び」の場だ。中学生が「あいさつの街」看板づくりに取り組むことも、体育振興会主催の盆踊りや、同時開催する街づくり委員会主催の模擬店、地区社協主催の福祉ふれあいまつりでの模擬店協力も積極的な社会参加だ。昨年から始まったビーチクリーンでは、中学生が小学生の面倒をみる。小学生が中学生の腕にぶらさがったり、おぶさったりして喜ぶさまを、浜須賀中学校の生徒指導の先生が目を細めながら語ってくれた。少子化が進むなか兄弟姉妹のいない小学生にとって、中学生は「やさしい」お兄ちゃんになり、「やさしい」お姉ちゃんになるという。これを異年齢交流というのだそうだ。浜須賀会館まつりでは中学生が社会参加と異年齢交流を積極的に行っていた。こうして中学生は大人と交わり、異年齢交流を経験して、「人間関係を意識せずに」学び、「やさしさ」が培われるのだな、と思った。

「山に緑の木が生い茂っていれば、水はその木の根にしっかりと蓄えられて、それがやがて石清水となり、小川となり、さらに大河となって、最後は海にそそぐ」
（吉田修二著『いじめの心理構造を解く』より）

このたとえを「あいさつの街」運動にあてはめれば、子どもたちを思う地域活動によって育まれる「やさしさ」こそが、次代を担う子どもたちへの確かな贈り物になる、ということではないだろうか。

（佐々木　勝治）

いじめるな！

「ガンバレ」ではなく、いじめている者に「いじめるな」というべきなのだ。
方向を変えるだけで、人間関係も社会も築けるし、変わってもくる。
（香山リカ・辛淑玉共著『いじめるな！』より）

「いじめ」のピーク

第１のピーク　１９８５～８７年ごろ
第２のピーク　１９９４～９６年ごろ
第３のピーク　２００６年～

（岩波ブックレットNo.６９５より）

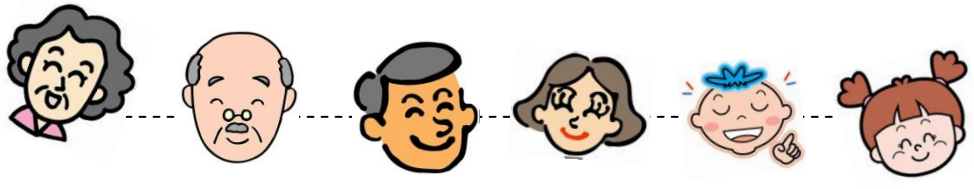
昨年の子育て講座で講師の先生は「いじめは日常の逃げられない人間関係のなかで起こっている凶悪な犯罪」と断言された。この地域では……と、松浪小学校区青少年育成推進協議会（この地区では青推協と略称）の機関紙などを渉猟して、中学校を訪問取材した。

「昨年（１９９４）を振り返り、先ずあげられるのは『いじめ』問題で、世間の大きな反響を呼びました。茅ヶ崎ではどうなんだろう、松浪では……」との思いから、青推協会長が「みんなで考えよう」と呼びかけ、①何かあったら学校の先生に相談する　②小さい時からのしつけが必要　③人権教育を前面に基本的な問題を教える、など話し合った。（「青推協だより」１９９５年２月発行・No.２３）。この時すでに「いじめ」問題は人権問題だとの発想があったのである。

青推協では毎年研修会を開き、「たより」でその都度報告している。２０１０（平成２２）年の研修会は「人権を考えよう」のテーマで行われた。講師として迎えられた人権擁護委員の先生は「（身近な）人権問題として、幼児・子どもの虐待といじめがあげられる」「インターネットは生活に欠かせない存在となってきたが、一方、ネットいじめなどの人権侵害が起こっている」と語った（「青推協だより」No.５５）。頻繁に起こる「いじめ」自殺問題は、今や人権問題として、社会が注目するようになった。

松浪中学校では「身の周りの『いじめ』に向き合ってみましょう」として、９月に「いじめについての一斉道徳」を行った。また、１０月には全校で「いじめ等に関するアンケート」をとる、と家庭に連絡し、（「生徒指導部だより」２０１２年・No.６）実施した。浜須賀中学校では「いじめは絶対ゆるさない！」として、①まだ気付いていないいじめがあるという視点を持ち続ける　②いじめアンケートや教育相談を充実し、早期発見・早期解決に努める　③いじめられている生徒の立場に立って、組織的に対応する、との三つの基本方針の下で「いじめ」対策に取り組んでいる（「浜須賀中学校だより」平成２４年１０月号）。

取材中に訪問した松林中学校のＡ先生の言葉が耳に残った。「今の子どもたちにとって、想像の場が少なくなっており、いじめの加害者が意識を持ちにくい」「家庭は隣近所や地域から孤立している。家庭と地域の風通しをよくする、公民館や会館などの活動機関がいくつあるか、これがキーポイントだ」。公民館の役割が改めて問われているように思う。



（佐々木　勝治）

輝く！　野球少年たち

松浪少年野球リーグ（６チーム）の紹介です。松浪小、緑が浜小、汐見台小、浜須賀小、平和学園などの小学生が所属しています。指導者はすべてボランティア。地域の方や子どもたちのお父さんなどが指導しています。また、影の力となってチームを支えているのはお母さんたち！　毎回のお茶当番、イベントの買い出し、お弁当づくり……その他打ち合わせ等で公民館に集まったり……。本当に頭が下がります。そして、子どもたちは感じているのです。自分たちを支えてくれるこの大人たちの想いを……。

だからこそ彼らは**“輝いて”**いるのです。

松浪スポーツ少年団
代表　櫻井武一

市内でも古い歴史のあるチームです。指導者は全員スポーツ少年団の指導者資格を持っています。野球だけでなく、キャンプや地引網、餅つきなど、子どもたちに様々な体験をして楽しんでもらいます。キャプテンの坂井君は負けず嫌い。怪我をおしての代打で活躍し、チームを引っ張っています。

キャプテン　坂井　晴

親和スポーツ少年団
代表　奥野木芳昭

「練習は厳しく、試合は子どもの自主性に任せ、のびのび楽しく野球をしよう」がモットーです。夏のキャンプは遊び中心で、楽しみな行事の一つです。「バッティングと足がチームの自慢です。投手もたくさんいてコントロールもよいです」と、キャプテンの佐々木君は笑顔で話してくれました。

キャプテン　佐々木翔平

美住スポーツ少年団
代表　板橋康弘

礼儀正しく、元気のあるチームづくりを目指しています。夏合宿、クリスマス会、餅つきなどたくさんのイベントで異年齢の交流を深めています。「皆で声を出し合い、接戦を制していい試合をしていきたい」と、チームワークの大切さを話してくれたキャプテンの伊藤君でした。

キャプテン　伊藤洸太

平和スポーツ少年団
代表　泉　初美

家庭的で、子どもたちの人間的な成長を楽しみに日々指導しています。春夏の合宿や親子大会などイベントが目白押し。指導者はスポーツ少年団の役員としても頑張っています。キャプテンの安東君はチームのムードメーカー。大きな声で皆を元気づけます。

キャプテン　安東滉生

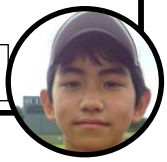
三ヶ丘スポーツ少年団
代表　五十嵐俊和

「自分が主役。でもチームプレーに徹する。挨拶のできる人に、感謝の気持ちを持てる人になろう！」がチームのモットーです。野球を楽しみ、団で得たものをいかして大人になってほしい、と指導しています。キャプテンの堀君は「練習は厳しいけど試合は優勝したい」と、意気込みを話してくれました。

キャプテン　堀　龍太郎

平和学園ウイングス
代表　作左部賢幸

チームのモットーは「明るく楽しくあれ」。子どもたちが全力を出し切るように指導しています。「練習も試合も楽しいです。少しでも多く試合ができるよう勝っていきたい」と、キャプテンの内藤君。松浪リーグでは一番後にできたチームですが、毎週の練習を頑張り、よい成績を残したいと意気込んでいます。



キャプテン　内藤　朗

出口彩香さん

平成 24 年 12 月に市民栄誉賞を受賞された出口彩香さんから、松浪リーグの皆さんに励ましのコメントをいただきました！　出口さんは三ヶ丘スポーツ少年団出身です。8 月の女子野球ワールドカップの日本代表として優勝に貢献されました。

＊＊＊『少年野球の思い出は、練習は厳しかったですが、試合は楽しいものでした。今、野球ができる喜びに感謝しながら一戦一戦楽しく野球をしていってください』＊＊＊

（安藤　敏恵）

緑のカーテン

今年の夏は、初めて新聞紙上やチラシで知った「緑のカーテン」を作ってみました。“緑のカーテン”とはゴーヤ、アサガオなどのつる性植物を窓の外や外壁にはわせて室内に差し込む夏の日差しを遮り、室温の上昇を抑える“自然のカーテン”のことです。

◎「緑のカーテン」として楽しめるものとしては

・食べる楽しみもある植物は・・ゴーヤ（ニガウリ）、トマト、キュウリ、つるありインゲン、ブドウ、パッションフルーツ　など。

・見て楽しめる植物は・・・・アサガオ、フウセンカズラ、ヒョウタン、ヘチマ　など。

ゴーヤ（左と中央）、フウセンカズラ（右）

◎「緑のカーテン」の効果は

・太陽の日差しを和らげ温度の上昇を抑える。

・冷房などの消費電力を節約できCO2削減になる。

・植物がCO2を吸収するので地球温暖化防止にもつながる。

・植物を育てることで緑と環境を大切にする気持ちをもつようになる。

・地域の環境美化にもなる。

フウセンカズラの袋と種

◎　フウセンカズラはかわいらしい小さな白い花をたくさん咲かせ、ホオズキのような丸い実をつける。実が“風船”のように見えるので“フウセンカズラ”とよばれるようだ。

緑色（次第に薄茶色に変わる）の袋の中には３つに仕切られた部屋？　に１粒ずつ白黒のかわいい種が入っている。

夏に緑がかった白色の小さなかわいい花を咲かせる。

花自体は目立たないが、紙風船のような形をした袋状の果実が可愛らしい。

（佐藤　博範）

表紙の写真

公民館主催事業

小和田公民館では、毎年数多くの主催事業を行っています。この写真は事業の一コマです。

公民館サークルのぞきみ隊

小和田公民館には、２５０を超える団体・サークルの登録があります。どの団体・サークルも楽しそうに活動しています。今回はその一部を、公民館だよりの中で紹介いたしました。

職員紹介

公民館の職員は、正規職員・再任用職員の男性３名と社会教育嘱託員の女性４名の計７名で構成されています。地域のみなさまに様々な学習機会を提供するとともに、サークル活動の場として気軽に楽しく利用していただけるように努めています。どうぞよろしくお願いいたします。

前列左から①米山明夫（館長）②神田一明③尾崎幸雄
後列左から④川田昌子⑤佐々木奈美⑥村松理花⑦染谷直子
①②は正規職員、③は再任用職員、④⑤⑥⑦は社会教育嘱託員です。

編集後記

◎ ふとしたご縁で、今回「公民館だより」の編集員に加えていただきました。不馴れなため、かなり緊張しましたが、皆様のお陰で無事できあがり、嬉しいです。とても良い経験でした。感謝しています。
（青木　君子）

◎ 文化資料館で「茅ヶ崎の関東大震災」展を見た。「相模湾を震源とする」「Ｍ７以上の地震が５分間で４回も起き」「建物が全半壊の被害を受けた」という。また「朝鮮人が各所で暴動を起こし、既に遠藤の近くまで襲来しているので、合図があったら……」との物騒な動きもあったとか。災害に備えて、過去に学ぶ心の用意が必要かと思った。
（佐々木　勝治）

◎ 「公民館だより小和田」第 80・81 号の編集に参加させていただき、貴重な体験をする事が出来、有り難うございました。これからも我が愛する町“小和田”とお付き合いできればと願っています。
（佐藤　博範）

◎ 初めて編集員となりましたが、好きな野球を題材にしながら子どもたちと触れ合ったり、ふるさと再発見では散策をしながら歴史を学んだり、とても楽しい取材をすることができました。「公民館て楽しそう！」皆さんが感じてくれるといいな♪
（安藤　敏恵）

◎ あれよ　これよ……と思う間に、完成間近となり、何のお役にもたたず、勉強させて頂きました。お仲間の皆様、お世話になりましてありがとうございました。
（村瀬　美子）

◎ 編集員の皆さんに感謝します。公民館主催事業だけでなく地域の話題を記事にしていただき、「公民館だより８１号」がとても豊かな内容になりました。今回も１ページ参加させてもらいました。
（神田　一明）

◎ 年月の経つのは早いもので、もう第８１号の発行となりました。大勢の人に読んでもらえるよう、皆様の手を借りながら試行錯誤で取り組んでいます。
（川田　昌子）